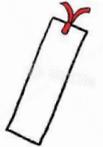


# 図書館だより

皆生養護学校  
学校図書館 発行  
No. 219  
R7. 5. 30

## 書棚の前で選ぶことを楽しんで



大人も子どもも「本を読もう」と考える時間が少なくなってきています。また、書棚の前で本を選ぶことも少なくなってきました。それでも、書店に行けばレジに並ぶ列ができていたり、公共図書館では新刊予約が80人以上待ちだったり、授業で学校図書館が活用されていたりして、まだまだ読書が消滅しているわけではない明るい現状も見られます。学校図書館では、子どもたちに書棚の前で選ぶことを楽しんでもらい、自然と生まれる「読みたい気持ち」を感じてほしいです。



司書教諭より



## この本おすすめですよ!

私たちは毎日、数えきれないほどの言葉を使って暮らしています。「うらやましい」「おいしい」「にっこり」…そんな何気ない言葉たちが、いったいどんな由来を持っているか、考えてみたことはありますか？

「へえ、そうだったんだ!」と思わず声に出してしまいたくなる発見の連続。言葉の背景を知ると、その言葉がぐっと身近に感じられ、もっと丁寧に、もっと深く言葉を使いたくなります。「言葉の力」、育ててみませんか？

「ことばの辞典  
語源辞典」より  
(川嶋 優監修 小峰書店)

【にっこり】  
にこ(和)が変化してできた言葉です。心が和やかになり、思わずほほえむ様子を表した言葉です。





## 司書の 「ほんのひととき」

学校図書館を少しでも近くに感じていただける「ひととき」となると嬉しいです。昨年度の「ほんのひとこと」から心機一転、タイトルを変えました。

「図書館は成長する有機体である」。現代にも通じるこの言葉は、インドの図書館学者ランガナタン博士が1931年に残し、私が度々思い出す言葉です。使える図書館として機能するためには、職員や施設、蔵書、サービス形態などを常に成長させていく必要があることを意味しています。利用される本を選書し、利用者の時間を節約して本と人をつなげ、じわじわとやんわりと確実に成長し続ける図書館でありたいです。



## 数字で つたえる 図書館利用



先月の「本」と「人」の動きを数字でお伝えします。利用の様子を数字でもご覧ください。

令和7年度	利用人数	平均人数	貸出冊数	授業利用	レファレンス (資料相談)
4月	313人	20人/日	311冊	53回	24回

## 新着図書案内



今月はリクエストや話題の新刊を中心に購入しました。蔵書構築を考えながら購入していきます。

- 0:総記 「13歳からわかる 7つの習慣」(日本図書センター)
- 3:社会科学 「仕事に行ってきます プラス(4)まだまだ学びたい」  
(雑誌「コトノネ」編集部 埼玉福社会)
- 7:芸術 「小学館の図鑑NEOアート はじめての国宝」(青柳正規 小学館)
- 9:小説 「カフネ」(阿部暁子 講談社) 祝 本屋大賞 第1位
- 9:小説 「ありか」(瀬尾まいこ 水鈴社)
- 9:小説 「Spring」(恩田陸 筑摩書房) 祝 本屋大賞 第4位
- 9:小説 「いつか月夜」(寺地はるな 角川春樹事務所)
- 9:小説 「鏡面のエリクサー 天久鷹央の事件カルテ」(知念実希人 実業之日本社)
- 9:文学 「ヨイヨワネ あおむけ編」「ヨイヨワネ うつぶせ編」(ヨシタケシンスケ 筑摩書房)
- 9:絵本 「あれあれだあれ?」(中川ひろたか ひかりのくに)
- 9:絵本 「きょうはだれのおたんじょうび?」(前田まゆみ パイインターナショナル)
- 9:絵本 「ぱちぱちおめでとう」(ひろゆた 小学館)

鳥大附属特別支援  
学校専攻科卒業生  
のお話です。

予約はすぐに  
3名入りました。